

支援教育部ニュース2018

No.4

2018年12月22日 発行:大阪府立八尾支援学校 支援教育部

全校研修⑦について

2019年1月4日(金)9:30~12:00、本校図書室にて全校講演会を行います。
内容は、「愛着形成不全について～愛着に問題を抱える児童・生徒の学校生活適応への支援～」をテーマに、臨床心理士の太田あかね先生による講演と、具体事例の紹介等を予定しています。

講師の紹介

太田あかね先生

大学・大学院において教育学、臨床心理学を学ぶ。現在は臨床心理士、大阪府スクールカウンセラーとして活躍している。ハートランドしぎさん・子どもと大人の発達センターのプログラムスタッフとして、福祉相談、保護者支援、発達・認知・行動に特性のある子どもたちにSST(ソーシャルスキルトレーニング)などを行う。

本号では、講演会を前に「愛着」について取り上げます。「愛着」とはなにか、また近年よく耳にする「愛着障害」などにも触れています。様々な意見があるテーマではありますが、「愛着」に関する著書が多数ある 米澤好史氏 の資料を参考にしながら、「愛着」についてまとめています。

「愛着」とは・・・？ “アタッチメント(attachment)”の英語を訳した言葉で、“触れてくっつく=近接”に近い

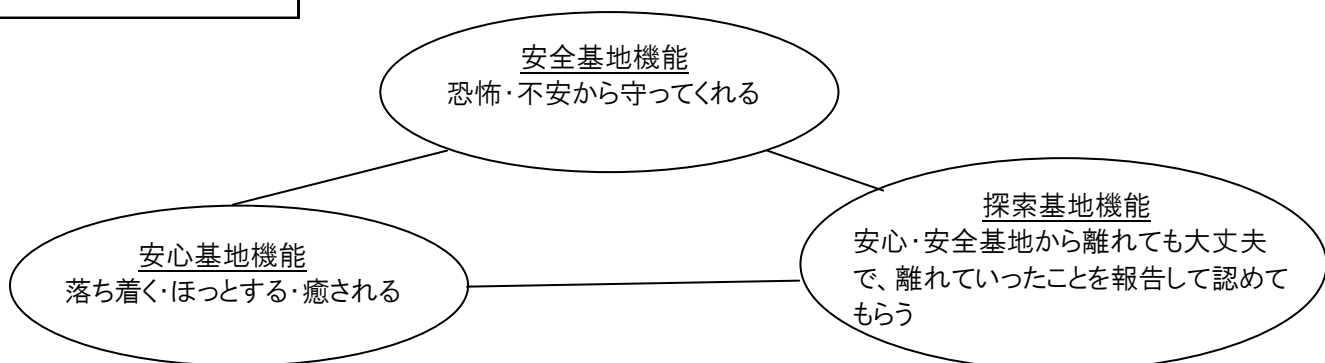
- 乳幼児が特定の人と築く情緒的な関係
- 養育者と接することによって作られる
- 大人になったとき、社会的な行動に深く関係する大切なものなどと定義されている

『子育てで一番大切なこと 愛着形成と発達障害』(杉山登志郎著 講談社出版)より

以下の「愛着形成の3基地機能」「愛着(障害)の6つの誤解」「愛着障害の見極め方:発達障害との違い」「表 愛着の問題発見チェックリスト」は、『やさしくわかる! 愛着障害』(米澤好史著、ほんの森出版)から、米澤先生およびほんの森出版に了解をいただいて引用・転載しております。詳しくはこの本をご覧ください。

愛着形成の3基地機能

・・・これらが関わりあうことで愛着を形成していく



「愛着障害」または「愛着」に問題を抱えている子どもについての誤解や偏見なども多く、米澤氏による「愛着」についての誤解をまとめたものを紹介します。

愛着(障害)の6つの誤解

その1:産んだ母親の責任であるという誤解

産んだ母親が必ず愛着形成をしなければならないというわけではなく、父親や親戚、周囲の大人も含めて、そのうちの誰かが母親機能を果たしていない問題としてとらえるべきです。

その2:育て方の問題という誤解

愛着は母子相互作用としてとらえられるもので、愛着障害は関係性の障害です。親の育て方だけに問題がある、子どもだけに問題がある、というものではなく、その子の特性、特徴と親の育て方が合わない、つまり相性の問題としてとらえるべきです。実際、同じ親が同じ育て方で育てたきょうだいの一方だけ、愛着の問題が起こることも多いのです。

その3:親の養育を受けられない場合や親からの虐待を受けた場合にだけ見られる現象という誤解

不適切なかかわりとはいえない親の養育を受けた通常家庭の子どもにも、愛着障害・愛着の問題を抱える子どもが増えています。

その4:愛着障害、愛着の問題は世代間伝達するという誤解

虐待などでもよく指摘されるように、愛着障害の子どもの親も愛着障害である事例が多い。しかし、親の育てられ方だけが影響したのではなく、親が子育てをする際に、再度自分の親(子どもからみて祖父母)から、親としての自分にとって脅威、苦痛を感じさせられるかかわりがあったことが、子育てに影響していることを発見している。

その5:愛着障害は取り返しがつかない、「もう遅い」という誤解

愛着形成は生後3歳頃までに形成され、その後の愛着形成・修復が難しいという考え方もあるが、適切なかかわりをすることで、愛着修復に成功した例もあります。

その6:他者による愛着修復支援が、親との関係を悪化させるという誤解

実際の親だけでなく、特定の愛着関係を他者と持ってしまうと、家庭にいる親との関係が悪化するのではという懸念がありますが、これは愛着形成は生涯、一人の人とだけ結ぶ絆であるとの誤解からくるものです。愛着は、肉親・恩師・親友・お世話になった人・人生の伴侶等、生涯多くの人と結ぶ関係です。

愛着修復は「いつでも・誰にでも」可能

上記のような誤解に基づくタブー視を乗り越え、愛着修復はどの発達段階でも可能であり、親はもちろんのこと、心理専門家による心理療法や医療による治療ではなく、その子に深くかかわるチャンスのある人なら、保育士・教師・指導教員等、誰にでも可能である。

愛着障害の見極め方:発達障害との違い

発達障害のうち、ADHD(注意欠如多動症)では、主に実行機能・「行動」に関する困難があり、ASD(自閉スペクトラム症)では、様々な困難の根本は「認知」とされています。それに対して、愛着の問題は「感情」に関する困難が多く指摘され、本来、子どもの行動だけで見極めることは難しいのです。しかし、子どもが低年齢であるほど、行動の問題として現れやすいとされています。米澤氏の研究で明らかにしてきた、行動チェックによる愛着の問題発見ポイントを紹介します。

表 愛着の問題発見チェックリスト

①多動	愛着障害=[ムラ]のある多動/ADHD=[いつも]多動/ASD=[居場所感]喪失時に多動 (月曜日朝多動/週後半多動/午前午後の時間帯や教科、場所による多動)
②モノとの関係	⇒愛着「移行対象」の問題 (モノをさわる/さわりながら歩く/振り回す/なくす/落とす/モノに囲まれる)
③口の問題	(口にモノや指を入れる/モノや身体・衣服を舐める・噛む)
④姿勢・しぐさの問題	(姿勢の崩れ/身体の揺らぎ、触る、動かす/服装の乱れ)
⑤人への接触	⇒脱抑制タイプ(べたべたと抱きつく/まとわりつく/飛びつく/潜り込む/抱きつき攻撃) ⇔抑制タイプ(後ろ・前等の立ち位置による拒否/かかわり拒絶)
⑥床への接触	接触快欲求・包まれる安心感欠如 (靴や靴下を脱ぐ/すり足/寝転ぶ/這い回る/寝技的に蹴る)
⑦危険な行動	高所・投擲・痛さへの鈍感 (高い所に登る/高い所からモノを投げる/飛び降り/窓から出入り/痛がらない)
⑧愛情欲求行動	注目されたい行動[自作自演事件・愛情試し行動・愛情欲求エスカレート現象] (自分で事件起こし報告/叱られるか試し比較/満足不能/静寂潰し)
⑨自己防衛	ウソ・否認・他責⇒自己正当化=安全・安心基地感欠如 (目撃されてもしたと認めない/人のせい/解離状態)
⑩自己評価の低さ	自己否定・自己高揚⇒意欲の低さ(「どうせできない」無力感/自信のなさ/根拠のない自信・虚勢/他者への指摘)⇒学習指導困難・低学力
⑪片付け	ADHD=行動の困難⇔愛着障害≠(したい)気持ちのなさ⇒規範遵守行動困難
⑫自閉系の愛着障害	[籠もる](フードや帽子・タオルを被る/不必要なマスク/カーテンやロッカー・戸棚に隠れる)+[執拗な・フラッシュバック的・パニック的攻撃]=[居場所感]の危機⇒焦点的・混乱的・爆発的攻撃(～だけを何度も/突然[理由不明]泣き叫びつつ大暴れ)
⑬関係性の視点	愛情の行き違い(欲求と授与の食い違い/タイミングのズレ/特性に応じた対応の欠如/気持ちの確認漏れ)

参考文献:『やさしくわかる！愛着障害～理解を深め、支援の基本を押さえる～』より引用、一部抜粋
米澤好史著 ほんの森出版

米澤好史氏 プロフィール (<https://researchmap.jp/read0015400/>より)

臨床発達心理士スーパーバイザー・学校心理士スーパーバイザー・上級教育カウンセラー・ガイダンスカウンセラー。
わかりやすく楽しく役に立つ講演多数(発達支援・学校教育・学習指導・青少年育成・子育て等)。こどもの特性理解
とその学習支援・発達支援・行動支援・認知支援のコンサルテーション、スーパーヴィジョン、指導・支援への助言を実施。
現在、和歌山大学教育学部教授。

- 愛着障害(発達障害と混同されやすい)・発達障害(ADHD・ASD・LD等)・攻撃性の問題(いじめ・暴力)への支援
(パニック的攻撃等)・不登校支援等の発達支援、親子関係支援(愛着[アタッチメント]の修復等)、子育て支援、教
育相談・発達相談・生徒指導のコンサルテーションとそのあり方の分析をする。
- 学習者の意欲や学習障害を含む様々な学習診断と学習指導、授業づくり、「生きる力」を養う「心の教育」のあり方
の分析をする。
- こころの支援(愛情の器モデル支援・居場所支援・認知行動支援等)の実践とコンサルテーション及びそのあり方
について分析、考察する。
- 人間の理解・記憶・思考・学習・感情・リスク認知等のメカニズムを認知心理学的手法を用いて解明し、日常的認
知活動の仕組み・エラーとその意味を分析する。
- 自己理解・他者理解・人間関係等の臨床的問題、コミュニケーション支援、児童・青少年の行動問題(問題行動)、
精神保健上の問題等、具体的・実践的・臨床的課題への対応について分析する。

主な著書

- 『愛情の器モデルに基づく愛着修復プログラムによる支援
——発達障害・愛着障害 現場で正しくこどもを理解し、こどもに合った支援をする—』(福村出版、2015年)
『やさしくわかる！愛着障害—理解を深め、支援の基本を押さえる—』(ほんの森出版、2018)

愛着を題材にしている書籍の紹介

- 岡田尊司著 光文社出版 『愛着障害 子ども時代を引きずる人々』(2011)
『回避性愛着障害 絆が稀薄な人たち』(2013)
『愛着障害の克服「愛着アプローチ」で、人は変われる』(2016)
- 愛甲修子著 花風社出版 『愛着障害は治りますか？ 自分らしさの発達を促す』(2016)
- 中南勲著 晃洋書房出版 『荒れる子と向き合う 虐待と愛着障害』(2018)